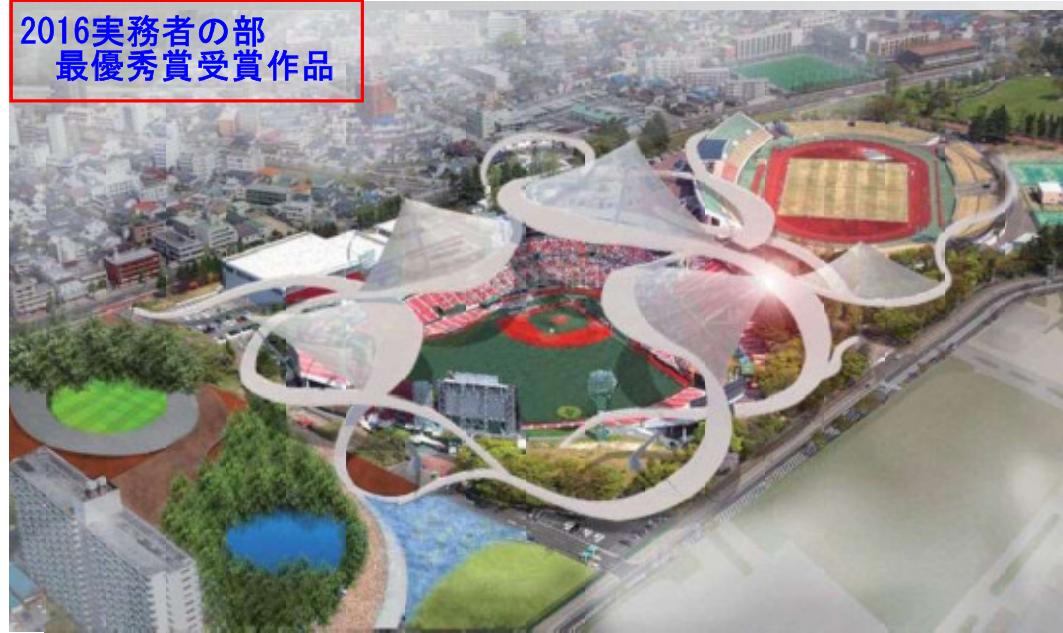


2016実務者の部 最優秀賞受賞作品



Junction Park

JSCA 東北支部設立 30 週年記念事業「構造デザインコンテスト」

古代ギリシャに始まった競技場は、競技者とそれを觀戦する觀眾との関係からすり鉢の觀客席の形となり、競技場が大きくなるにつれて競技場を形成する壁も周囲と隔離するように巨大化されてきました。この宮城野運動公園も野球場、競技場がそれぞれの大きな壁に塞がれ、中での様子を垣間見ることができます、一体の公園として集合するメリットを活かせていません。

そこで、市民が散歩やジョギングをしたり、リラックスしたりできる場として、公園の中で孤立した野球場・競技場とのつながりを感じることのできる“ミチ”を提案します。

- ## 1 “ミチ”が紡ぐ屋根



- ・浮遊する“ミチ”はシンプルな構造ユニットにより形成される。その構成要素の支柱とケーブルにより、必要な箇所に屋根を形成する。
- ・観客席部に必要最小限にかけられた屋根は、青空の球場を維持しながら、人・音・水・光・風を制御し、**快速な環境**を作り出す。

2 楽天球場の良さを継承



- ・観覧車席や、エキサイティングフィールドシートなど、座席の種類に定評のある楽天球場に、「ミチ」からの新たな視点を付加する。
- ・今までの専技者と固定席の観客の関係に加えて「ミチ」からの「見る・見られる」といった市民と野球場との新しい関係を構築する。

3 立地条件を最大限に活用



- ・「ミチ」は、KOTOB STアンド隣接する陸上競技場やテニスコート、イベント広場、計画中の公園などを連続的につながるように配置。
- ・様々な場から始まる「ミチ」は、歩いていると自然と他の場へたどり着き、そこで行われる**アクティ**

